

市長あいさつ要旨

令和元年 10 月 8 日

令和元年 10 月市議会臨時会を招集申し上げましたところ、議員の皆様には御出席いただき誠にありがとうございます。

議員の皆様におかれましては、去る 9 月 15 日に行われた市議会議員選挙におきまして、厳しい選挙戦を勝ち抜かれ、見事に当選の栄誉を得られました。

改めてお祝いを申し上げますとともに、市民の皆様の負託に応えるべく、今後 4 年間、御健勝で御活躍されますことを祈念申し上げます。

さて、少子・超高齢化、人口減少社会の進行、市民の価値観や生活様式の多様化など、私どもを取り巻く環境は大きく変化し、新たな時代の転換期を迎えております。

このような厳しい状況だからこそ、私がこれまでに培ってきた知識・経験・人脈と 6 年間の市政運営の経験を活かして、将来に希望の持てる長野市を築いていかなければならないと考えております。

私は、市の役割とは、市民の安全と生活を守ることが基本であり、将来のリスクが顕在化する前に、早め早めに手を打っていくことが重要であると考えております。

それぞれの課題ごとに、知恵とアイデアを出しながらスピード感を持って、今の市民、将来の市民のため、そして長野市の発展のために、全力で進めていかなければならないと思っております。

市民一人ひとりが幸せを実感でき、「長野市に住んでいて良かった」、「長野市に住みたい」と思っただけできるよう、議員の皆様とともに、まちづくりについて考えながら、人と地域を育てる施策を進めていくことが重要であります。

そのため、部局を超えた横断的な施策を展開し、人と人のつながりをはじめ、

産業界、教育機関をはじめ、地域団体や福祉関係者などの多様な地域の担い手が連携し、将来の“ながの”を担う子どもたちへ確かな未来をつなげていくことが、私の想いであり、私の責務であると考えております。

市政をお預かりした平成 25 年以降、それまで先人が築き上げてこられた長野市の基盤を引き継ぎつつ、更に活気ある元気なまちを目指して、喫緊かつ最重要課題である人口減少対策をはじめ、「市民はお客様プロジェクト」の実施、「こども未来部」や「文化スポーツ振興部」など課題に即応できる組織づくり、地域おこし協力隊・地域きらめき隊の配置や産業振興事務所設置などによる中山間地域の活性化と支所機能の充実、市立長野中学校の開校による中高一貫教育の実施など、様々な課題に対して真正面から全力で取り組み、実践してまいりました。

今後とも将来の長野市のための強固な骨格を作りあげていくため、公約の柱である「守る」「育てる」「つなぐ」の更なる進化・充実を図ってまいりたいと考えております。

本市の将来を見据えたまちづくりの指針として平成 29 年度に策定いたしました第五次長野市総合計画前期基本計画においては、「魅力ある地域づくり」、「にぎわいあるまちづくり」、「活力あるまちづくり」の三つの計画推進重点テーマを掲げ、総合的、横断的な視点で、全庁を挙げて「幸せ実感都市　ながの」の実現に向け、各種施策を進めております。

本年度は、人口減少・少子高齢化の加速により増大する社会保障関係経費への対応、市民の生命・財産を守る防災対策、公共施設や都市インフラの老朽化対策や長寿命化などの重要・困難な行政課題に対し、事が起きてからの対症療法ではなく、予め備え、対策を図る「Y O B O U(予防・呼ぼう)」をテーマとし、先駆性、創意性などが盛り込まれた事業や、喫緊に取り組む必要がある事業に予算を重点配分し、取り組んでいるところであります。

中でも、特に力を入れて進めている政策につきまして、改めて申し上げます。

まずは、「安定した雇用の確保」であります。

都会に進学した若者の6割が帰ってこない中、「カムバック to ながの」を合言葉に、若者や移住希望者が長野に移り住めるよう、市を挙げてUJIターンの促進に取り組んでいるところであります。

引き続き、多くの方を長野地域の企業とマッチングできるよう、安定した雇用を確保するため、産業界と行政が連携して長野地域の企業の魅力を磨くとともに、企業情報や求人情報などを積極的に提供してまいります。

次に、「子育て支援・教育環境の整備」であります。

子育て支援の充実につきましては、市政推進の基盤施策の一つとして、結婚から妊娠、出産、育児、そして教育に至るまで、切れ目のない支援に努めているところであります。

引き続き、保育士の確保など保育需要に適切に対応することで、子育て中の皆様が働きやすい環境を整えるとともに、児童虐待の未然防止など、子どもの命をしっかりと守ってまいります。

また、教育環境の整備については、学力・体力の向上や家庭の教育力の向上を図るため、家庭・地域・学校・事業所が連携・協働した取組を更に進めてまいります。

特に体力向上につきましては、小さい頃から運動に親しむ習慣を身につけてもらえるよう取組を進めるとともに、幼保・小・中・高の連携を図り、進学による環境の変化や発達段階に応じた、きめ細かな教育を進めてまいります。

次に、「医療・介護の充実」であります。

介護が必要な状態になっても住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、医療と介護の連携の強化を図り、在宅医療、介護、住宅、福祉サービスなどを包括的かつ継続的に提供できる体制を整えるとともに、必要な時に、必要な人が、必要な医療を受けられるよう、少子・超高齢化社会を見据え、医療提供体制の充実を図ってまいります。

次に、「市民の健康の保持・増進」であります。

市民が健康であることは、活力あるまちの源であり、全ての施策を実施する上で土台になるものであります。

そのため、子どもの頃からの健全な食生活や運動・スポーツ習慣の定着、企業への健康経営の浸透など、医療・介護をはじめ、あらゆる分野と連携しながら、健康をテーマとした施策に取り組んでまいります。

中でも、健康寿命の延伸に関しては、昨年9月に「75歳以上を高齢者と呼びましょう」と、松本市長とともに共同提言したことに加え、本年度は、人生100年時代を迎え、いつまでも心身ともに健康で元気に過ごしていただくことを目的に、フレイル予防に注力し、取り組んでいるところであります。

次に、「社会的援助を必要とする方の自立支援」であります。

貧困対策で重要なことは、貧困の連鎖を断ち切ることであり、そのための教育や支援に力を入れているところであります。

引き続き、支援を必要とする子どもに対する就学や生活・学習支援、親に対する就業・経済的支援など、未来を担う子どもたちが社会の一員として自立していける環境整備を進めてまいります。

次に、「災害に備えた万全の体制の構築」であります。

近年の気候変動の影響は大きく、全国各地で局地的な豪雨や、次々と発達する雨雲の線状降水帯による長時間の降雨により、土砂崩れや洪水被害をもたらすケースが頻発しております。

そのため、災害に強い都市基盤整備を図るとともに、関係機関や近隣市町村と連携して、被害を最小限に抑制できる体制づくりを進めているところであります。

併せて、土木事務所の配置による対応の迅速化、防災行政無線のデジタル化による音達区域の拡大や支所等への防災備蓄品の分散配備などにより、中山間地域における防災対策の充実、強化を図ってまいります。

次に、「公共交通の整備・渋滞対策」であります。

公共交通の整備につきましては、持続可能な公共交通を目指して、「乗って残

す」意識を高める取組を進めてまいります。

特に中山間地域の公共交通を支える仕組みについては、よりニーズに適した方策を住民の皆様とともに検討してまいりたいと考えております。

また、渋滞対策につきましては、関係機関と連携を図りながら、ハード・ソフト両面から渋滞解消に向けた取組を進めてまいります。

これらの項目に加え、現下の課題として、イトーヨーカドー長野店の閉店に伴う権堂地区をはじめとする中心市街地活性化や、ジビエ振興にも支障となる豚コレラ対策などにも、市として取り組んでまいります。

併せて、連携中枢都市圏の取り組みは元より、より広い視点で周辺市町村にも目を向け、圏域のリーダーとして、北信地域全体を盛り上げてまいりたいと考えております。

他にも、市街地と中山間地域の均衡ある発展、女性や高齢者の活躍の場の拡大、農業の担い手確保や農産品のブランド化など、解決すべき課題が山積しておりますが、市議会の皆様、市職員とともに、前向きにかつ使命感を持って取り組んでまいります。

この度の改選により、市議会は新たな体制でスタートを切られたところではありますが、改めて申し上げるまでもなく、議会と市長とは二元代表制の下、共に市民の代表として、互いの役割を果たし、切磋琢磨しつつ、常に連携をとりながら、市民の皆様の幸せと長野市の発展のために一体となって取り組むことが大切であると考えております。

今後とも、市議会や関係機関、そして市民の皆様との協働により、明るく元気で、魅力あふれるまちづくりを推進してまいりますので、議員の皆様の一層の御理解と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

本日、提出いたしました案件は、「令和元年度長野市一般会計補正予算」など議案 11 件、認定 1 件、報告 8 件であります。

詳細につきましては、副市長から説明申し上げますので、十分な御審議をいただき、御決定を賜りますようお願い申し上げます。